

コロナ禍を乗り越えた 仲間との絆

思い出を胸に新たな舞台へ

令和6年度江戸川大学卒業式



3月15日に開かれた令和6年度江戸川大学卒業式

令和6年度(32回)江戸川大学卒業式が3月15日に行われた。会場では華やかな袴やスーツを身にまとった卒業生をはじめ、教員や保護者など大勢の人たちが第二体育館にずらっと並び、厳かな雰囲気が始まった。式典後は学科ごとに写真撮影を行い、ゼミの会食で先生や仲間たちと最後の時間を楽しんだ。

今年の卒業生は新型コロナウイルスの影響で入学式ができず、1年生の時は授業をほぼオンラインで受けた。卒業生の一人は「オンライン授業だと先生に直接聞けないし(問題が)解けないという状況が一番難しかった」という。卒業生にとって1年生の時期は不安で困難な日々だったはず。そんな中、社会学部とメ

ディアコミュニケーション部の学年全員が初めて集まる機会となったのが今回の卒業式だった。

卒業生に4年間の思い出について聞くと、「ゼミのみんなで文化祭の後に打ち上げを行ったことです」と教えてくれた。ほかの卒業生は、ゼミの海外実習を挙げ「文化も違う国でいい経験をさせてもらった」と語った。卒業できたことへの安堵の気持ちや両親への感謝など、それぞれの心境を聞くことができた。

今年退職したマス・コミニケーション学科の隈本邦彦特任教授は「彼らに苦勞させられたことが思い浮かん

で、涙出そうになった」と卒業生への思いとともに、「僕の卒業と彼らの卒業が同じ日で本当に良かった」と嬉しそうに話していた。

バラエティ豊かなお弁当が人気で、惜しまれつつ昨年11月で閉店した「ロビンのおじちゃん」と鶴谷隆明さんも卒業式に駆けつけた。ロビンのお弁当は40年もの間江戸川大学で愛され続けた。式の開始前には、多くの卒業生が声をかけて談笑する姿が見ら



体育館前に設置された看板の前で記念撮影をする卒業生たち



卒業生と談笑する鶴谷さん

れた。鶴谷さんは「今日は卒業生たちの顔を一人残らず心に焼き付けておこうと思つて」と照れ臭そうに語った。

コロナ禍に不安な思いで入学してから4年、少しずつ日常を取り戻しつつ多くのひととの関りや経験が増えていった大学生活だっただろう。

学生記者クラブでは、1年生の時に取材に同行して先輩方の背中を見ながら取材の仕方を学びました。そんな先輩方が4月から新社会人として新たにスタートされることに、私自身も大きな励ましを感じています。これからの活躍を応援しています。

(文・大場咲彩、写真・田辺里穂子)